

牛久：学校周辺に見る自然

第8号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2019年5月11日発行

＜ みずべ公園で、春の生きもの観察。～⑤鳥 ＞

4月15日、16日、ひたち野うしく小4年生とのみずべ公園春の生きもの観察。今回は、鳥です。この時期のみずべ公園には、冬鳥も夏鳥も見られます。おおぜいで歩いていると鳴き声だけはしても姿は見つけにくいので、皆さんが学校にもどった後にうつした鳥も紹介します。



水にもぐって魚を丸飲みするカワウ。岩にのぼってはねをかわかす。

まずは、みずべ公園に行くとき必ずといっていいくらい見られるカワウとカルガモ。カワウは、水にもぐって魚を丸飲みしますが、はねが水をあまりはじかないので、写真のように岩の上ではねを広げてかわかしているようすをよく見かけます。



陸に上がったカルガモと、泳ぐカルガモ。

カモの仲間には冬鳥が多いですが、カルガモは一年中日本にいます。黒いくちばしの先が黄色いのが特ちょう。おもに種子や葉を食べます。



こちらは、何度か登場しているアオサギ。日本最大のサギで、ゆっくり歩きながら、魚やザリガニなどをつかまえて食べます。灰色っぽい体なのに、どうして「青サギ」なのでしょう？ 外国でも、「灰色のサギ」と呼んでいるところが多いようですが。

じっとして、かくれるアオサギ。



またカワウが飛んできたかと思ったら、今度はゴイサギでした。頭の後ろから、繁殖はんしよくの時期じきに出る、冠羽かんうとよばれる白く長いはねが見られます。夕方から活動を始めることが多く、魚やザリガニなどを食べるそうです。冬に幼鳥ようちようの死体を見ていただけに（30年度第33号）、ちょっと安心しました。

飛び立つゴイサギ。白く長い冠羽かんうが目だつ。



池では、すばやく飛びかう夏鳥なつどりのツバメが目だっていました。水面を飛ぶ虫を、つかまえているのだそうです。ふだんは時速30～60キロと自動車くらいのスピードで飛んでいますが、敵から逃げるときやエサの虫をつかまえるときには、時速200キロくらいまで出るそうです。どうして、そんなスピードが出せるのでしょうか？

すばやく飛びかい、水面を飛ぶ虫を捕つかまえるツバメ。



次に、林に目をうつしてみましよう。ヤマザクラに、ヒヨドリが花のみつを吸いに来ていました。少し前まではオオカンザクラに集まっていたようですが、1日にどれくらいのみつを吸うのでしょうか？ 虫や木の実などをよく食べますが、みずべ公園は、ヒヨドリにとってごちそうたっぷりの公園なのでしょう。

ヤマザクラのみつを吸うヒヨドリ。



しきりに木の枝えだをつつく、日本最小のキツツキ、コゲラ。反対側に回ってみると、ハラビロカマキリの卵らんのうだった。

別の木では、スズメくらいの大きさで日本最小のキツツキのコゲラが、しきりに木の枝をつついていました。何だろうと思って反対側に回ってみると、つついていたのはハラビロカマキリの卵らんのうでした。木の実も食べるそうですが、虫の卵たまごやまゆを食べているのをよく見かけます。



春～夏にかけてしきりにさえずるシジュウカラ。スズメくらいの大きさと、胸のネクタイもようがめじるし。

この時期、「シチピー、シチピー」としきりにさえずっているのは、シジュウカラ。ただし、さえずるのは雄だけ。胸のネクタイもようが特ちょうの一つですが、雄の方が太めのネクタイです。



地面をつついてエサを探すハクセキレイ。上のシジュウカラとまちがえる人もいますが、よく見るとちが

シジュウカラとまちがえる人もいますが、地面をつついてエサを探していることが多いハクセキレイもいました。胸のもようもちが



地面をつついてエサを探すキジバト(左上)。幹の皮の下のエサを捕えるヤマガラ(右上)。さえずるウグイス(下2枚)。

キジバトも、地面をつついてエサを探していました。ヤマガラは幹に

垂直にとまり、皮をはがしながらエサをつかまえていました。ウグイスは「ホー、ホケキョ」と声は聞こえても枝にかくれてなかなか見つかりませんが、何とか後ろ姿だけうつせました。



おなじみのホオジロ(左上)とスズメ(右上)、カワラヒワ(左下)、ムクドリ(右下)。

まだ葉が出ない枝にとまってさえずっていたのは、ホオジロ。スズメとまちがえる人もいますが、スズメよりちょっと大きめで、茶色ちやいろですがもようも違ちがいます。そのスズメも、地面をつついていました。カワラヒワもムクドリも地面をつついていました。何を食べているのでしょうか？

その他、冬鳥ふゆどりのシロハラとツグミ、それとアオジがまだ見られました。【理科支援員：宮内】



まだ見られた冬鳥ふゆどりのツグミ(上2枚)とシロハラ(左下)。アオジ(右下)は冬鳥と日本北部から来るものがある。